

地域における主任児童委員の活動

～子育て支援を中心に～

A Study on Community Welfare Activities of the Chief Child Welfare Volunteers

— Centering on the Child Care Support —

大学院社会福祉学研究科 野 口 伐 名

Isaaki Noguchi Ph.D.

要 旨

この小論の目的は、「深刻化・多様化する児童福祉問題に対応」するために、「児童福祉の担い手」として、平成6(1994)年1月1日から「児童福祉に関する事項」を専門的に担当する児童委員として新たに設置された主任児童委員の地域における活動について主として子育て支援を中心として具体的に考察を試みたものである。この主任児童委員の設置目的は、「住民に最も近い存在である児童委員の活動をより一層推進していくこと」によって、地区の「児童委員の活動」の活性化を図り、「児童委員のリーダー役」として国民の期待に応えようとするものである。青森県においても、主任児童委員は、県内に241人(平成9年1月1日現在)配置され、児童委員と関係機関との連絡調整を図りながら、児童委員と一体となって活動を行っている。その主たる活動は、大きく「児童の健全育成、子育ての支援」と「児童の個別援助活動」などの二つにある。その事由は、例えば、虐待されている児童等の発見、いじめ、家庭内暴力、校内暴力、不登校などの実情把握に見られるように、今や子育ては、個々の家庭内の問題としてだけでなく、社会全体での支援を、この家庭の崩壊が危惧される状況の中で、「子育てに必要な優しい地域作り」が日本の社会全体の大きな課題になっているからである。そこで本稿では、「地域における主任児童委員の活動」の課題設定の下に、「健やかな子どもを生み育てる地域づくり」の視点から、児童の健全育成のための子育て支援を中心にして、主任児童委員の使命と役割、主任児童委員の専門性の活動、主任児童委員における子育て支援の三つの問題を設定して、地域における主任児童委員の活動について具体的に考察を試みようとしたものである。主任児童委員は、地域において児童福祉の担い手、児童委員のリーダー役、地域の子育てアドバイザーとして、時にはオンブズマンの役目を担いながら、「健やかに子どもを生み育てる環境づくり」の緊急且つ重要な課題となっているのである。

キーワード：主任児童委員、子育て支援、子育てに必要な優しい地域作り

I 問題の所在 主任児童委員設置の緊急且つ必要性

主任児童委員は、「深刻化・多様化する児童福祉問題に対応」するために、平成6(1994)年1月1日から新たに「児童福祉に関する事項」を専門的に担当する児童委員として設置された「児童福祉の担い手」である。この主任児童委員は、その後、平成13(2001)年11月の児童福祉法一部改正で、法定化されている。主任児童委員の設置目的は、「住民に最も近い存在である児童委員の活動をより一層推進していくこと」によって、地区の「児童委員の活動」の活性化を図ることにある。それは、主任児童委員を設置し配置することによって、地区の児童委員の地域活動(体験や実績)を更に発展させ、「深刻化・多様化する児童福祉問題」に対して国民の期待に応えようとする

ものである。主任児童委員が「児童福祉分野での経験が豊富な民生委員・児童委員のなかから選出される」ことになっているのも、そして「担当区域をもたず、地区の児童福祉問題を担当する」ことになっている大きな理由もここにあるのであろう。児童委員会制度は、改めて「今日的な社会情勢やニーズに対応した児童委員の役割・任務が問われること」になったのである。この間の経緯について、平成4(1992)年11月21日付の児童委員会制度の再編制を提案した児童委員問題研究会(永井俊一座長)の中間報告は、児童委員のその活動体制の在り方について「担当事項(担当内容)を明示」していないと次のように報告していることから容易に知れるであろう。

「(児童委員の)担当事項(担当内容)を明示せず、児童委員の主体的な活動に委ねられたため、各児童委員の力量や経験などの差、また地域差などがあり個々の児童委員の努力にもかかわらず隔靴搔痒感があってその活動体制のあり方が課題とされてきた。」(福祉新聞)

主任児童委員は、児童分野を中心に活動する「児童委員のリーダー役」として、「社会情勢やニーズに対応した活動を期待」(福祉新聞)されているのである。この「児童委員のリーダー役」(主任児童委員)の職務内容は、より具体的には、平成4(1992)年12月5日付の「厚生福祉」によれば、「児童委員の活動を支援したり、地域の“子育てアドバイザー”としての子供や親の相談に乗る」ことであり、「いじめや登校拒否など児童問題は複雑化、多様化している」中で、「主任児童委員には地域で身近なことを相談できるおじさん、おばさんの役目を果た」すことにある。平成4(1992)年12月14日付の「福祉新聞」は、「予定通り六年度には、主任児童委員が配置され、活動の活性化が図られるように期待したい」と、次のように論説している。

「かつて全国運動として展開された『丈夫な子どもを生み育てる運動』は、婦人民生委員という名の“児童委員”が主力で取り組まれ、大きな成果を上げた体験と実績を持っている。主任児童委員の配置によってこれらの体験と実績を下に、さらに、活動を発展させ、国民の期待に応えて欲しいものである。」

主任児童委員の新設について、福祉新聞は、「誠に時宜を得たもので、評価したい」とエールを送っている。青森県も平成9年3月の「青森県子育て支援計画あおりすくすく子育てプラン」を策定して、「子育て支援社会の実現に向け、重点的に進める施策」の一つに、「(2)子どもや子育てに関する相談支援体制の整備 ①相談機関の充実強化と包括的システムの整備」を掲げて、「地域において相談活動に従事する家庭相談員、児童委員・主任児童委員など相談員の活動の活性化を図るため、研修を強化し」ようとしている。家庭相談員は、「福祉事務所(家庭児童相談室)で、子どもや妊産婦の福祉に関する事項について、実情の把握、相談、調査、指導を行うことを業務とする者」であり、「児童委員は地域において児童・妊産婦の福祉に関する援護指導を行う者で民生委員が兼ねており、県内に3,142人(平成9年1月1日現在)配置されている」。そして「主任児童委員は、平成6年1月に制度化された子どもの問題を専門に担当する委員で、県内に241人(平成9年1月1日現在)配置され、児童委員と関係機関との連絡調整を図りながら、児童委員と一体となって活動を行っている」。その後、主任児童委員の活動は、平成16年の児童福祉法の改正(主任児童委員の職務の部分改正)によって、「主任児童委員も区域担当児童委員と同様に個別支援に関わる」(第十七条)ことが明確に定義づけられている。

「第十七条 ②主任児童委員は、前項各号に掲げる児童委員の職務について、児童の福祉に関する機関と児童委員(主任児童委員である者を除く。以下、この項において同じ。)と

の連絡調整を行うとともに、児童委員の活動に対する援助及び協力を行う。

③前項の規定は、主任児童委員が第一項各号に掲げる児童委員の職務を妨げるものではない。」

この平成16年の児童福祉法の改正によって、「主任児童委員も区域担当児童委員と同様に個別支援に関わる」ことになったのは、一つには、「主任児童委員は、……個別ケースについて対応しない取り扱いが一部で行われていたこと」と二つには、「児童虐待等への対応など主任児童委員が積極的に関わることが期待されて」いたからである。

「この改正は、主任児童委員は、関係機関との連絡調整など区域担当児童委員への支援を行い、個別ケースについて対応しない取り扱いが一部で行われていたこと、児童虐待等への対応など主任児童委員が積極的に関わることが期待されている事案が増えていることをふまえて行われたものです。」(『児童委員、主任児童委員が、課題を抱える親子を支えるための活動ヒント集』)

このように平成16年の児童福祉法の主任児童委員の職務の部分改正によって、「主任児童委員は、関係機関との連絡調整などとともに、区域担当児童委員と同様に個別事案を担当し地域の児童福祉活動の推進を図ることが明確」になり、より具体的には、今日の主任児童委員の活動は、児童福祉の地域支援として「児童虐待や不登校、非行、育児不安などの」「課題を抱える親子への個別支援は、区域担当児童委員と主任児童委員が協働して関わる」ことになったのである。主任児童委員は、区域担当児童委員と連携して、「子どもや子育て家庭に対する個別支援を行なうこと」、特に「児童虐待など緊急に対応する必要があるケースに対し、区域担当児童委員とともに、主任児童委員が主体的に関わっていくことが期待され」(児童委員活動の手引き30)たのである。このように個別支援の場合において、主任児童委員は、「区域担当児童委員と同様、子どもや子育て家庭の立場に立って、親身になって相談にのり、必要なサービスや機関の情報を提供していくことが求められ」(児童委員活動の手引き30)ているのであるが、「加えて、担当区域を持たず、その経験上児童福祉に関わる知識や情報を有する、主任児童委員ならではの」、次のような4つの役割が期待されている。

「●児童相談所や学校、保健所等の関係機関と区域担当児童委員との連絡調整

●個別支援において、区域担当児童委員が悩んだ際の支援

●子どもや家族が、近所に住む区域担当児童委員には相談しにくい場合の、仲介役

●児童委員の担当区域の枠を超えて支援をしなければならないケースの場合の、区域担当児童委員同士の連絡調整」(『わがまちならでは』の児童委員活動の展開をめざして(児童委員活動の手引き30))

そこで本稿では、「地域における主任児童委員の活動」の課題設定の下に、「健やかな子どもを生み育てる地域づくり」の視点から、主任児童委員の使命と役割、主任児童委員の専門性の活動、主任児童委員における子育て支援の三つの問題を設定して、地域における主任児童委員の活動について具体的に考察を試みることにしたい。

Ⅱ 主任児童委員の使命と役割の問題

第一の問題は、主任児童委員の使命と役割の問題である。主任児童委員は、「児童福祉分野での経験が豊富な民生委員・児童委員のなかから選出される」ことになっている。この主任児童委員の選

出母体になっている「児童福祉分野での経験が豊富な民生委員」と「児童委員」との関係と任務は、「民生委員は、児童福祉法による児童委員を兼ねており、その任務としては児童、妊産婦、ひとり親家庭への支援がある」。「特に、虐待事例では、同時に多くの問題や課題を抱えている場合が多いことなどから」、主任児童委員による「見守り活動」もある。その民生委員は、「民生委員法に基づき各市町村に置かれる民間の奉仕者であり、行政の協力機関として位置づけられている」。従って、児童委員は、民間の奉仕者である民生委員が「兼ねること」になっているので、「専門的な援助技術があるとはいえないが、複雑なケースでないかぎり問題解決の活動をする（法12）」ことになっている。ここで児童委員の活動体制が今日的な課題として問われているのは、①児童委員の担当事項（担当内容）を明示していない、②児童委員の主体的な活動に委ねられたため、各児童委員の力量や経験などの差が見られる、③児童委員の活動体制に地域差が在る、④専門的な援助技術があるとはいえないが、複雑なケースでないかぎり問題解決の活動をする、⑤深刻化・多様化する児童福祉問題に対応できない、などの問題にあるが、「児童委員活動は、ややもすると、民生委員活動のかげに隠れがちなものとなっている」ことも軽視できないであろう。このことは、青森県の平成9年度分厚生省報告「民生委員（児童委員）の活動状況」に良く見られるので、同報告から作成して参考までに次に示して置きたい。なお青森県の民生委員・児童委員定数は3,383名で、その中に主任児童委員241名を含んでいる。

●問題別相談・指導件数（平成9年年度中）

	民生委員	（再掲）主任児童委員
地 域 福 祉 ・ 在 宅 福 祉	71,127	497
家 族 関 係	17,116	545
住 居	8,211	99
健 康 ・ 保 健 医 療	52,710	515
仕 事	9,430	122
生 活 費	21,137	194
年 金 ・ 保 険	8,059	46
非 行 ・ 養 護 ・ 健 全 育 成	18,713	4,539
生 活 環 境	19,867	621
そ の 他	79,107	1,720
計	305,477	8,898

●関係制度別相談・指導件数（平成9年年度中）

	民生委員	（再掲）主任児童委員
活 保 護	33,842	56
老 人 福 祉	117,261	401
身 体 障 害 者 福 祉	17,352	127
精 神 薄 弱 者 福 祉	5,710	126
児 童 福 祉	23,927	4,900
母 子 ・ 父 子 福 祉	11,718	613
老 人 保 健	18,854	149
母 子 保 健	5,119	526
精 神 保 健	3,178	89
生活福祉資金・その他の援護資金	10,248	69
そ の 他	58,268	1,842
計	305,477	8,898

●その他の活動件数（平成9年年度中）

	民生委員	(再掲) 主任児童委員
調 査	52,874	848
証 明 事 務	10,566	150
施設・団体・公的機関との連絡	74,233	3,295
友愛訪問・安否確認のための訪問	103,760	6,851
●活動日数	295,476	11,890
●訪問回数	401,220	6,218

ここに明らかなように、「生活保護世帯の生活福祉資金の貸し付けや独居老人の世話など民生委員の仕事の方が大変忙しい」（傍点筆者）（'92.12.5 厚生福祉）。ちなみに、「民生委員の役割としては、社会調査、相談、情報提供、連絡通報、調整、支援態勢づくり、意見具申という7つがあげられる」。このために主任児童委員を新設し、児童委員活動を強化しようとしたのである。そして民生委員・児童委員の中から指名され、児童福祉に関する事項を専門的に担当する主任児童委員の選任に当たっては、「児童福祉に関する理解と熱意があり、児童福祉に関わる専門的な知識・経験を持ち、地域における児童健全育成活動の中心となり、積極的な活動が期待できる人を選ぶよう、厚生労働省から通知が出」ている。具体的には「たとえば保育士や教員としての経験がある人や、保健師、看護師などの資格のある人、子ども会やPTA活動などを積極的に行っている人などが選出」（児童委員活動の手引き30）』されている。

主任児童委員の使命と役割が、「児童福祉に関する事項を専門的に担当する」ことにあることは先に触れたところである。「児童福祉に関する事項」とは、「児童福祉等に関する機関・団体と連絡調整を行い、区域担当児童委員の活動への援助及び協力を行」うことである。具体的には、①関係機関・団体、施設等との連絡（◎児童相談所、福祉事務所〔家庭児童相談室〕、市区町村行政、地域子育て支援センター、保健所・保健センター、医療機関、消防署、警察等の関係機関 ◎学校等教育関係機関 ◎児童福祉施設 ◎児童福祉や児童健全育成に関わる地域の組織・団体〔子ども会、母親クラブ、母子・父子会、当事者組織・団体、など〕）②区域担当児童委員への援助活動（◎区域担当児童委員が担当する区域内において行う活動に対し、必要な援助や協力を行います。）③援助を必要とする子どもや子育て家庭、及び児童健全育成への支援（◎支援を必要とする子どもや子育て家庭、及び児童健全育成のための多様な支援を、区域担当児童委員と連携して進めます。特に主任児童委員は、関係機関・団体等との連携に配慮し、必要な社会福祉及びその他の社会資源の提供を図ります。）④意見具申（◎子どもの権利が著しく侵害されていたり、子どもにとって好ましくない環境がある場合等について、関係行政機関等への連絡通報や意見具申を行います。）⑤民生委員としての活動（◎主任児童委員は、民生委員としての活動については制度の周知徹底等を行うにとどめ、必要があれば区域担当民生委員に連絡します。）など5つの使命と役割がある。この5つの具体的な主任児童委員の使命と役割は、青森県児童家庭課の「主任児童委員設置運営要綱（児童福祉法）に定める業務（青森県児童家庭課資料）」によって、今、我々の研究課題である地域における主任児童委員の活動」の視点に立って整理すると、次の二つに「まとめ」ることができよう。

（1）児童福祉関係機関と地区を担当する児童委員との連絡調整及び児童委員と一体となった活動（①家庭環境、社会環境の情報収集 ②地域ぐるみで行う子育て活動の啓発の企画及び活動の中心的な役割 ③児童健全育成活動や母子保健活動の推進）

(2) 例えば、虐待されている児童等の発見、実情把握など児童委員の活動への援助、協力」

ここに言う「(1)」の「児童福祉関係機関と地区を担当する児童委員との連絡調整及び児童委員と一体となった活動」は、その具体的な活動内容「①家庭環境、社会環境の情報収集 ②地域ぐるみで行う子育て活動の啓発の企画及び活動の中心的な役割 ③児童健全育成活動や母子保健活動の推進」から容易に理解できるように、より具体的には「児童福祉関係機関・施設との連絡・調整を図りながら、地区担当児童委員と一体となって児童の健全育成、子育ての支援を行う」ことを指し、「(2)」の「児童委員の活動への援助、協力」は、「虐待されている児童等の発見、実情把握など」に見られるように、「地区担当児童委員に援助、協力して児童の個別援助活動を行う」ことを意味している。このことは、青森県民生委員児童委員協議会青森県健康福祉部児童家庭課編集『主任児童委員活動記録集』に次のように記述されていることから容易に知ることができよう。

「主任児童委員の主たる活動は、児童福祉関係機関・施設との連絡・調整を図りながら、地区担当児童委員と一体となって児童の健全育成、子育ての支援を行うとともに、地区担当児童委員に援助、協力して児童の個別援助活動を行うことにある。」

とすれば、主任児童委員の主たる活動としての使命と役割は、大きく「児童の健全育成、子育ての支援」と「児童の個別援助活動」などの二つにあると考えても良いと思われる。

しかしながら、主任児童委員の配置を提言した平成4年11月21日付の全国民生委員児童委員協議会『児童委員活動の活性化をめざして－児童委員問題研究会中間報告』に、「児童委員活動の現状と問題点」として、「このような状況変化に伴い、子育ては、個々の家庭内の問題としてだけでなく、社会全体での支援を検討しなければならない課題となってきた」と指摘した上で、「近年では、一般家庭の子育てを支援し、地域における児童健全育成活動の中心になる者として期待が高まっている」と強調して、主任児童委員の配置によるその積極的活用を図る必要があると提案していること、そして、「児童虐待や不登校、非行、育児不安などの課題を抱える親子を、地域でどう支援していくかが、大きな社会問題となってきた」（『児童委員、主任児童委員が、課題を抱える親子を支えるための活動ヒント集』）る現状などから、ここでは、児童の健全育成のための子育て支援を中心にして地域における主任児童委員の活動を考察して見るものである。

Ⅲ 主任児童委員活動の専門性

我々の第二の問題は、地域における主任児童委員の活動の専門性に関することである。主任児童委員が「深刻化・多様化する児童福祉問題に対応」するために、地区の児童委員と共に新たに地域の児童福祉問題「児童福祉に関する事項」を「専門的に」担当する「児童福祉の担い手」として配置されたことは既に触れたところである。その児童委員の活動体制に主任児童委員が、今日的な課題として問われていることは、必ずしも「専門的な援助技術があるとはいえないが、複雑なケースでないかぎり問題解決の活動をする」ために必要な援助技術の「研修を行う機会」をどのようにして与えるか、と言うことである。児童委員問題研究会も、平成4年11月21日の「中間報告」の中で、これからの「児童委員活動の活性化」をめざすために、「主任児童委員に対しては、『児童委員大学』のような高度の研修を行う機会を与えるよう配慮すべきである」と提言している。それは、主任児童委員が「児童福祉分野での経験が豊富な民生委員・児童委員のなかから選出される」ことになっているからであろう。しかも、主任児童委員は、「行政の児童関連サービスなどに不備があ

った場合に、自治体に改善を申し入れるオンブズマンの役目も担う」(平成4)年12月5日付「厚生福祉」)ことが期待されているのである。その後、主任児童委員の業務は、平成13(2001)年11月の児童福祉法一部改正で、「(主任児童委員は、)児童委員の職務について、児童の福祉に関する機関と児童委員との連絡調整を行うとともに、児童委員の活動に対する援助及び協力を行う」と法定化されたが、地域の「児童の福祉」に「専門的に」担当する「職務」であることは間違いがないであろう。このことは、同一部改正で、「従来、主任児童委員は都道府県知事(指定都市及び中核市の長を含む)の推薦を受けて厚生労働大臣が委嘱していたが、大臣が児童委員のうちから指名することとされたこと」から容易に理解することができよう。厚生労働大臣の「委嘱」から「指名する」主任児童委員の業務の法定化は、「深刻化・多様化する児童福祉問題に対応」するためには、「児童福祉に関する事項」を「専門的に担当する」主任児童委員の積極的な活用(活動)を図る必要があると認識されたのである。そのために、平成4(1992)年12月5日付の「厚生福祉」によれば、「児童委員の平均年齢がおよそ六十歳と高齢であるのに対し、主任児童委員は『四十歳代ぐらいまでの若い世代』で、元保母(保育士)など『子育てに豊富な知識や経験を持つ人』を採用」することになるだろうと伝えている。主任児童委員は、地域の「児童の福祉」ないし「児童福祉に関する事項」を担当する福祉の専門職(福祉職)である。ミラーソンは、福祉職の求められる専門性について、「①とくに親や家庭から分離された児童を血縁者でない職員によって心身の健全な発達を援助する、②児童とその親のもつ問題の解決と自立支援の援助過程に対して専門職員としての人間のかかわりをベースに専門的援助が展開される」など二つの資質を挙げて「専門的な援助技術」の必要性を求めている。そして専門職の概念を「専門職とは、主観的にも客観的にも相応の職業上の地位が認められ、一定の研究領域をもち、専門的な訓練と教育を経て固有の職務を行う、比較的地位が高い、非肉体的職場に属する職業である」と規定している。そして専門職の特性として、「①専門職は、一定の理論にもとづいた技術をもつこと、②一定の教育訓練が必要であること、③専門職になるためには、一定の試験に合格して能力が実証されねばならないこと、④専門職は、その行動綱領によって統一性が保たれること、⑤専門職は、公共の福祉に連なるサービスを目的とすること、⑥専門職は、組織化されていること」などの6点を挙げている。主任児童委員は、「マンパワーの質(対応の質)」、即ち「専門知識、専門技術を熟知し、それを適材適所に駆使できる能力、いわば諸援助技術を『こなす能力』が問われて」いるのである(吉沢英子・小館静枝両氏)。児童福祉における援助技術(ソーシャルワーク)は、「(ソーシャルワークは、)個々の技術そのものであるというよりも、技術を含む(または技術を行使する)援助の体系というべきものである(大島侑氏)」ものであるからである。なお、「社会福祉援助技術を一般にソーシャルワークと呼ぶ」(中村優一・秋山智久両氏)んでいる。社会福祉(児童福祉)における「援助の体系」としての「援助の原則」及び「ソーシャルワーク(社会福祉援助技術)」を、大島侑氏から学んで「地域における子育て支援と主任児童委員の活動(野口伐名講演レジメ)」から今、ここに示すと次の通りである。

「②援助の原則→社会福祉援助において重要な原則

- i) 自己覚知→援助者が自分の個人的な性格や価値観の偏りを知る。
- ii) 個別化→人間は誰でも一人の人間として扱われたいというニード(欲求・要求)をもつ。
- iii) クライエント(利用者)の言動の理解→人間の行動や言葉、態度等には、全てに意味があるという前提からこの原則はでてくる。

③ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の種類

- i) ケースワーク（個別援助技術）→一人ひとりのクライアント（利用者）相手に援助をしていくことである。
- ii) グループワーク（集団援助技術）→お互いに相手の顔と名前が一致することが可能な程度の小集団において、さまざまなプログラム活動を行い、それを通してメンバーの抱える問題を解決し成長していこうとするものである。
- iii) コミュニティワーク（地域援助技術）→上の二つが、それぞれクライアント（利用者）個人や、集団に焦点を当てるものであったのに対して、これは、地域に焦点を当てていこうとするものである。

iv) その他の方法

- ・ ソーシャル・アクション（社会活動法）
- ・ ソーシャル・ウェルフェア・リサーチ（社会福祉調査）
- ・ ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション（社会福祉運営管理）
- ・ ソーシャル・プランニング（社会福祉計画）」

吉沢英子・小館静枝両氏は、「児童家庭福祉に携わる専門職者の条件として望ましいとされる内容」について、次の4つの能力を挙げている。それは、主任児童委員の「マンパワーの質（対応の質）」にかかわる重要な能力でもあるので、やや長文に渡るがここに引用して置きたい。

- 「①社会のメカニズムの理解と、それに影響を受ける心理的な動きを観察できる能力、加えて、その現象（行動）を理論的根拠の裏づけをもって分析、判断できる能力。・正しい実践を導き出すための科学を身につけ、実践から理論へ、そしてその理論を実践に結びつけていく姿勢が必要である。たえず実践によって実証でき、修正できる柔軟性を心すること。
- ②社会的視座から、物事の正否の判断ができること、社会的不正いわば差別に対するセンシティブィティを発揮する能力。・専門性を強調するあまり、狭い視野からの判断になりがちである。常に敏感に社会の動きをはじめとし情報を採取する能力があること。
- ③実践を的確に行える専門技術を駆使できる能力、その前に適切な状況判断によって専門技術の使い方を配慮できる能力。・人間は、状況によって態度表現に微妙な変化がある。病気も誤診によって投薬を間違えれば死に至ることがあると同様に技術の展開過程につまずきがあれば、信頼関係はおろかかえって問題を深めてしまう場合があることを心しておかなければならない。
- ④価値観として、共生社会の一員としての立場を尊重し、実在する人間に対し直接かわりをもっていく過程で自らの仕事（職員として）の特別な意味を見出していくことのできる能力。・つねに相手（子ども、親、等）から学ぶ喜びを味わえること、人間存在の独自性や一過性の意味を深め、自己への問いかけの姿勢を保持していること。」

今日、児童福祉の問題は、「いじめ」「いじめ自殺」「児童虐待」「家庭内暴力」「校内暴力」「不登校」などの児童をめぐる生育状況に見られるように、益々深刻化し多様化している。その意味で、「子どものかかえる問題は、複雑・深刻化しており、必要な専門知識と高度な技術を駆使した質の高いサービスを求める時代に変ってきている（吉沢英子小館静枝両氏）」のである。それは、「社会福祉の問題が、単独で発生することはほとんどない」し、「多くは家族を軸に複合的に発生してくる」からであり、「その複合性を総合的にとらえて対応しようとするのが、社会福祉の実践体系における

新しい流れの一つである（大塚達雄氏）」からでもある。主任児童委員は、深刻化・多様化する児童の福祉問題に、そして新しい児童福祉の実践の流れに対応するために、福祉職として専門的援助技術が求められる所以である。全国民生委員児童委員協議会も『児童委員活動の活性化をめざして－児童委員問題研究会中間報告（平成4年11月21日）－』の中で、「主任児童委員に対しては、『児童委員大学』のような高度の研修を行う機会を与えるよう配慮すべきである」と積極的に提言していることは、先に触れたところである。

この主任児童委員の今日的な「高度の研修」の一つに、「平成14年コザ児相主任児童委員研修」が挙げられる。この「平成14年コザ児相主任児童委員研修」は、国立療養所琉球病院の後藤健治氏が、「虐待された子供たちの心理と治療、ケアについて」と題して、「虐待された子供たちの心理と治療」の視点から主任児童委員の「虐待された子供たち」への「ケア」について、より具体的には社会福祉援助技術の一方法としてのケアマネジメント（介護等支援サービス）ないしケアワーク（介護技術）の問題について、「1. 虐待された子供たちの言葉」、「2. 問題行動が起こるメカニズム」、「3. PTSDとは」、「4. 思春期の問題（PTSDを中心に）の治療」、「5. 虐待例のPTSD～多機関の連携が必要～」、「6. これから必要なもの」、「7. 追補 虐待された子供達をケアする上での留意点」の7つの研修内容を設定して具体的な症例を示しながら講義を展開しているもので、極めて教示に富んだ意義深い「高度の研修」となっている。そこでこの主任児童委員の今日的な「高度の研修」内容の一つとして、後藤健治氏の「平成14年コザ児相主任児童委員研修講義資料－虐待された子供たちの心理と治療、ケアについて」から学んでやや長文に渡るが、「虐待された子供たちの心理と行動」、「思春期の問題としてのPTSD」、「虐待された子供たちへの援助技術（ケア・ケアマネジメント・ケアワーク）」の三つの視点からこの研修内容について紹介し学んで見ることにしたい。

●（1）虐待された子供たちの心理と行動

「1. 虐待された子供たちの言葉。

『先生もいつか僕を殴るんでしょう』 『将来に一点の光も見えない』

『どうせ僕なんかいないほうがいいんだ』 『（謝ったって）許してもらえないことは絶対ない』

幼少時親から暴力的、心理的、性的に虐待された思春期の子供たちに共通する特徴は

- ①自己評価が低い。 ②一方的な暴力的解決しかイメージできない。
- ③相手の自分に対する評価を極端に気にする。（その結果過度にいい子を演じようとする）。
- ④ 相手の自分に対する誠意を試そうとする。（自傷行為、一部の非行）

症例1 14歳男児、父親からの暴力的虐待。『どんなにしても殴られつづけた』という。謝って許してもらうことは『そんなことはありえない』と否定する。『あやまって許される、その場が治まる』ことを体験していない。自分が不利な状況になるとパニックを起し、同級生に暴力をふるった。」

「2. 問題行動が起こるメカニズム

- ①幼少期の虐待のため、『ここにただ生きていていいんだ』という安定の欲求が満たされず、常に全面的に生きる価値を否定されるような不安の中で生きている。
- ②自己評価が低く、自分をサポートしてくれる相手に気に入られつづけるために『一方的に我慢していい子を演じつづける』パターンと、相手が全面的に受入れてくれないときの急激な

不安とパニックが混在する。

- ③『謝って解決する』、『話し合いで解決する』、『五分五分のいたみ分け』というイメージ自体が理解できず、トラブルの解決は一方的に我慢するか暴力的なものしかありえないと思っている。
- ④サポートする相手にはべったり依存し、少しでも離れようとすると急速に不安になってパニックとなり、自傷行為やトラブルを（半ば無意識に）起こして『相手を試そうとする』パターンとなる。
- ⑤女の子は自傷、男の子は暴力の形のパニックが多い。

症例2 13歳男児、父親からの暴力的虐待および父親の母親への暴力を目撃してきた。

うまく行かないとすぐに全面的に周囲（学校や病院、親など）のせいにするか、『どうせ自分なんか生きていてもしょうがないんだ』と極端に自分を責める。一方的に我慢するのが限界になると、感情のコントロールがつかなくなりパニックを起こす。遊び友達をバットで殴った。」

●（2）思春期の問題としてのPTSDの問題

「3. PTSDとは

- ①心的外傷後ストレス障害の略。精神的なショックで外傷（トラウマ）が生じ、外傷時の状況に似た状況でパニックを起こす。パニックのために結果的に社会適応がしにくくなる。
- ②基本的な症状は不安と抑うつ。これらを紛らわすためにA 薬物やアルコール、ギャンブルなどの嗜癖、B 特定の人間関係、C 仲間、病院などの社会環境に依存し、外見上は様々な問題の形であられる。

症例3 14歳女児、性的虐待。下の兄弟に対する暴力、人が多い状況で過呼吸発作を起こし硬直してしまう。気分が激しく変動し、一時的に『死にたい』とまで落ち込む。かなり年上の男性に無防備に接近し、べったり依存しようとする。」

「4. 思春期の問題（PTSDを中心に）の治療

- ①基本的には『若いだけで治る可能性が高い』。完全に回復する可能性がある。よくなることを保証する。
- ②『生きていて良かった』、『心から安心できる環境を体験した』、『本当に自分のことを考えてくれる大人に出会った』という、無条件のサポートが治療の本筋。
- ③サポートをしながら、間違ったパターン（パニックや人を試す自傷行為など）を修正していく。
- ④心理療法的に虐待の事実関係などを突っ込んで聞くことはしない。（もし自覚できても受け止めきれない）。
- ⑤一時的な踏み台としてうつの薬などを利用して結果的な社会適応を保証し、『いい経験をしてこれまでつらかったことを穴埋めする』機会を保証する。
- ⑥何とか社会に適応して、いろいろな実際の出会いの中から、長い年月の後に『いろいろ辛かったけど、その後いいこともあったからプラスマイナス帳消しになったかな』というころに抑うつや不安は消失する。

症例4 12歳男児、父親からの暴力的虐待および上級生からのいじめによる一年以上の不登校。家から外に出られない。（自分から離れようとする）母親に対する暴力、感情のコントロールがつかない激しいパニック（大暴れ）を起こす。母親とともに開放病棟に入院とし、

病棟で徹底的にサポートした。母親役、父親役の看護スタッフ、作業療法士、心理療法士、ケースワーカーなどでチームを作り毎週カンファレンスをしながらチームで治療にあたった。父親役の看護師は2人で釣りに出かけたり、かなり重点的に関わった。最初父親に似た患者を見て部屋から出られず、トイレにもいけなくなった。3ヶ月の入院でパニックはすっかり落ち着き、『退院を名残惜しむ』、『将来看護師になりたい』というまで病棟で落ち着くことができた。その後は情緒障害学級所属、普通学級登校で中学の一学期は50日登校した。」

● (3) 虐待された子供たちへの援助技術の問題

「5. 虐待例のケアマネジメント ～多機関の連携、ネットワークが必要

- ①虐待を受けた環境からできるだけ離す。(児相の一時保護、養護施設入所、自立訓練施設、病院への入院、精神障害者の社会復帰施設、親戚への転居など)
- ②本人をサポートできる親族や関係者(キーパーソン)がいる場合はケースはそのキーパーソンを中心に支援体制を作る。(親のカウセリング、保健所、福祉事務所、女性相談所、警察のサポートセンターなど)
- ③本人をサポートできるキーパーソンがいない(または不十分な)場合は一時入院して病棟でのサポートを検討する。
- ④入院した場合は、退院後本人をサポートする体制を入院中から準備する。(学校、青少年センター、児相、民間の施設など)
- ⑤継続して本人及び親をサポートできる機関、フォローできる地域の人を確保する。(保健婦、理解のある親族、民生委員など)

症例3の母親はネグレクト(子供を放置して何日も帰ってこない)のケース。児相、保健所、病院、教育相談員、学校、養護教諭などの連携で母親(心因反応)は精神科病棟に入院、症例3の女兒は一時保護から親戚方へ、下の兄弟は一時保護から養護施設に入所した。」

「6. これから必要なもの

- ①家に居られないケースの病院以外の入所型の治療・リハビリ施設。
- ②通える思春期の居場所となる空間。時間外や休日も含む。支援センターの利用。
- ③PTSDなど当事者の自助会。
- ④親の自助会。
- ⑤各行政機関の役割分担、臨機の協力体制と連携。」

「7. 追補 虐待された子供達をケアする上での留意点

- ①初対面の大人を信用することはありえない。本当のことを言わない。

どんな大人も、まずは『自分を痛めつける相手でない』ことが確信できるまでは信用しない。当然、よほど信用しない限り『本当のことは言わない』と考えるべきである。だから初対面の相手に『虐待が無い』と本人が言っても、虐待が無いと考えるべきではない。『話したことが虐待している親などに伝わると余計にひどい目にあう』ことをまず恐れる。本人が信用できる大人から情報を得てはじめて事実確認と考えるべきである。

- ②暴力的な表現や発想を道義的に非難しない。

虐待の中で育った子供達は、暴力を日常の当たり前のこととして見聞きし、極端には『暴力的なパターンだけしか問題解決の道がない』状況で過ごしてきた。そのためちょっとした

表現や発想が暴力的になるのは当然で、それを道義的に非難しては信頼関係は構築できない。

③『イヤなことが出来ない』ことを『わがまま』と区別する。

虐待の中で育つと、『理不尽な強制をただ耐え忍ぶ』ことと、『全面的に受け入れられる』ことの両極端のものの考え方しかできなくなる。そのため、『少しでもイヤなことに耐えることは、虐待されている状況と等しい』、『イヤなことであっても、そこをがまんすれば、結果として人生にプラスになる』ことを想像できない。その結果として、(イヤなことは全くしないのに)信用した相手には全面的に甘えるため一見『わがまま』とうつる行動に出る。これはわがままとは違い、『必要な我慢、イヤなことを乗り越えての成果』という発想自体が無いことの表れであることを理解する必要がある。

④よほど信頼関係が出来てからでないと、注意や叱責が裏目に出て全く効果がない。

信用した相手から、(当然のことでも)ちょっとでも注意や叱責されると、『自分は生きていないほうが良い』、『この相手も自分を虐待する』ととたんに萎縮し、態度が一変する。多くの場合信用できなくなり、叱られた相手との関係を物理的に本人のほうから絶ってしまう。(学校に行かない、家出するなど)。結果としてサポートしてくれている人との関係が絶たれるのがもっとも問題。この基本的な世間に対する不信感と、萎縮しやすいもろさを理解しないで、感情的に叱責したり『悪いことは悪い』と注意する態度をとる限り、虐待された子供達の心を開かせ、理解することは困難である。」

⑤はじめは叱責する役と、サポートする役を物理的に分ける。

上記の問題のため、ある程度信頼関係ができるまでは、『怒り役』を別に用意し、サポート役と分担とする。サポート役との信頼関係がしっかりしてきたら、少しずつ『この人には怒られても見捨てられない』という体験をさせて行く。こうして『怒られることも虐待と違って自分のためになる』ということがはっきりと実感されてはじめて本人を『叱る』ことが有効になる。」

このように主任児童委員に対する、極めて今日的な「虐待された子供たち」への「ケア」についての「高度の研修」が象徴的に示しているように、今日の急激な社会の変化に起因する、いじめ、非行、不登校、ひきこもりなどの児童問題、更には育児・子育て不安、子育て相談などの家庭問題を、単に個々の家庭問題としてではなく地域社会全体の問題としてその解決を支援していくためには、主任児童委員の「高度の研修」は必要不可欠であろう。このことは、例えば長野市更北地区における主任児童委員の活動(平成16年4月1日現在)に、「①民児協(民生児童委員協議会)の定例会、研修会などに参加する。」、「主任児童委員会の研修会に参加する。」と、次のように主任児童委員の民児協児童福祉部会に所属して「研修会への参加」を義務づけて、主任児童委員の資質の向上を図っていることから容易に理解することができるであろう。

「 4 主任児童委員の活動について

①民児協(民生児童委員協議会)の定例会、研修会などに参加する。

②民児協児童福祉部会に所属する。

③学校等の訪問(保育園5園・幼稚園3園・小学校4校・中学校2校・高等学校1校)を行う。

④地域における児童福祉に関する団体、施設、学校等との連絡調整、協議及び関係会議への参加をする。

⑤主任児童委員会の研修会に参加する。

⑥会長と連絡をとりながら、区域担当児童委員と個別援助に関わる。」

そして主任児童委員会の相談内容からの活動について、次の4つの問題を挙げている。

「 5 相談内容から

①子育ての問題及び相談・児童虐待、躰、親子のコミュニケーションなど

②家族関係・家庭環境の問題 ・家族構成の変化

③不登校にかかわる問題

④障害児の問題」(以上「更北地区民生児童協議会の紹介」から)

なお、横須賀市の「平成11年度 民生委員児童委員活動報告」から主任児童委員の活動状況を指導件数で見ると、次のようになっている。

「●問題別相談・指導件数

地域福祉在宅福祉	136	家族関係	4	健康保健医療	20
生活費	15	非行養護健全育成	464	生活環境	4
その他	15			合 計	638

●その他の活動件数

証明事務等	29	施設団体公的機関との連絡	1,269
諸会合・行事への参加	2,354	友愛訪問安否確認のための訪問	166
		合 計	3,818

これら「平成14年コザ児相主任児童委員研修講義資料」や平成16年4月1日現在の「長野市更北地区民生児童協議会の紹介」、更には横須賀市「平成11年度 民生委員児童委員活動報告」の主任児童委員会の活動が示唆しているように、「児童福祉に関する事項」を「専門的に担当する」主任児童委員の重要な能力である「マンパワーの質（対応の質）」、より具体的には社会福祉援助技術の一方法としてのケアマネジメント（介護等支援サービス）ないしケアワーク（介護技術）の質をいかにして高めるかが問われているのである。

IV 主任児童委員の地域における子育て支援活動

第三の問題は、主任児童委員の主たる活動としての子育て支援である。主任児童委員の地域における子育て支援は、具体的には、児童の健全育成や「妊産婦、ひとり親家庭」への「家庭相談援助」などの「児童委員の活動に対する援助及び協力」を通して「健やかに子どもを生み育てる地域づくり」の問題である。と言うのは、地域においては、都市化、核家族化、女性の社会参加、少子化の進行などによって、家族のあり方も養護の方法も変り、しかも親が子どもと接触する時間が少ないために、子どもの成長発達に必要な保護と教育・保育ができなくなっているからである。このことは、平成10年11月17日(水)に福島市の「ホテル聚楽」で行われた平成10年度福島県主任児童委員研修会において、兼子芳久（福島県保健福祉部児童家庭課児童健全育成担当主査）氏が「少子化進行の背景」の一つとして「晩婚化・非婚化が進む理由」の中で、女性の仕事として「子育てに対する負担感の増大」などを次のように挙げていることから容易に理解できるであろう。

「○結婚・出産の目的や必然性の変化

○女性の高学歴化・社会進出の増加と機会費用の増大

○仕事と子育ての両立の困難さ

○育児・教育に伴う金銭的負担の増加（97年度国民生活選好度調査）

○子どもを生み育てることの『消費財』的価値（投資的より）

○子育てに対する負担感の増大（女の仕事）」（福祉施策の動向～少子社会への対応～）」

そして兼子芳久氏は、「少子化がもたらす影響」として、この主任児童委員研修会において「（1）経済全般に対する影響」、「（2）社会保障等の公的諸制度への影響」と共に、「家族のスタイルの変化と子どもの健やかな成長に対する影響」を挙げて、この「少子社会への対応」こそ主任児童委員の取り組み（「うつくしま子どもプラン（平成7年3月）」の策定）であると強調している。それは、子育てサークルの育成など小回りの利く地域の中の多様な子育て支援の整備である。子育てサークルとは、「子育て中の母親等を中心として、情報交換、親子の交流などを行っている自主組織」である。この子育てサークルの育成の必要性については、青森県においても平成10年10月4日（日）に「弘前市学習センター」において開催された、平成10年度第2回子育てサークル推進大会（主催子育てサークル推進大会実行委員会・青森県）のテーマ「フレッシュ イン 子育て」（開催要綱）の中で、「県内の子育てサークルの育成を推進し、今後の活動の活性化を図るため、県内の子育てサークル会員が一堂に会し、活動成果の発表を行うとともに、今後の発展についてともに考えていく機運を醸成するため子育てサークル活動推進大会を開催するものです」と次のように強調している。

「近年の核家族化、都市化の進展等により、子育てに関する知識、経験の伝承が不足している中で、地域において子育て中の母親による自主的なサークルが結成されています。子育てサークルは、母親同士の情報交換の場として、育児不安やストレスの解消に効果があるといわれていることから、今後とも活動を支援していく必要があると考えられます。」

この「母親の育児不安やストレスの解消に効果がある」子育てサークルへの支援は、地域での子育てネットワークの中核として、いかに必要且つ重要であるかが考えられているのである。その意味では、今求められている主任児童委員の職務（活動）は、家庭や地域の養育機能の低下を踏まえて、「家庭に対する地域の子育て支援のためのサポート・システム」を構築することでもある。このことは、平成6（1994）年12月16日のエンゼルプラン「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について」も、子育て支援のための基本的視点について、「家庭における子育てを支援するため、あらゆる社会の構成メンバーが協力していくシステムを構築します」と次の三点を提案していることから知れるであろう。

「子育て支援のための基本的視点

①子どもを持ちたい人が、安心して出産や育児ができるような環境を整備します。

②家庭における子育てを支援するため、あらゆる社会の構成メンバーが協力していくシステムを構築します。

③子育て支援の施策の中では、子どもの利益が最大限尊重されるようにします。」

子育て支援とは、子育てセンター実践研究会編『子育て支援実践報告61』によれば、「子育てを支援するということは、子育てしている親が子育てをしやすくしていくということで、親支援であり、家庭支援である」。とすれば、子育て支援とは、具体的には「親支援であり、家庭支援である」

ことを意味している。子育て支援としての親支援とは、親が子育ての力をつけるように支えることで、家庭支援とは、親の立場に立って家庭を擁護するために、「関係機関と連絡をとったり、ボランティアを活用したり、地域をつくりながら」家庭を支援していくことを意味している（子育てセンター実践研究会）。青森県民生委員児童委員協議会青森県健康福祉部児童家庭課編集『主任児童委員活動記録集』は、児童を取り巻く地域の現状について、「近年、…子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化し…子育てに不安を抱く親が増えている」と次のように指摘している。

「近年、少子化の進行と併せ、核家族化や都市化の進行、女性の社会参加の増加など、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化してきている。少子化により、子ども同士のふれあいが減少し、子どもの自主性や社会性が育ちにくくなっている。また、核家族化等により、地域や家庭で子どもの養育機能が低下してきていることから、子育てに不安を抱く親が増えている。」

地域において「健やかに子どもを生み育てる環境づくり」が緊急且つ重要な課題となっているのである。

今、最近の何とも痛ましい親がわが子を子が親を、そして兄が妹を殺害するという家庭の崩壊が危惧される状況の中で、「子育てに必要な優しい地域作り」が日本の社会全体の大きな課題になっている。何故なら、子育ての第一義的責任は親にあるにしても、地域は、「子どもを社会の存続のための一員として巣立たせるため」に、親のそして「家庭における子育てに対しての責任を担わなければならない」（子育てセンター実践研究会）からである。「育てあい、育ちあいが難しくなっている現代」の「今、子どもや子育て家庭が抱えている課題」について、『児童委員、主任児童委員が、課題を抱える親子を支えるための活動ヒント集（児童委員活動の手引き31）』（社会福祉法人全国社会福祉協議会全国民生委員児童委員連合会）は、「子どもと子育てをする親をめぐる現状」について次の4つの現代的な課題を指摘している。

その第一は、「現代は、子どもたちを取り巻く環境が一段と厳しさを増しており、……その結果、深刻な育児不安や「歪んだ」子育て、さらには子どもにとって育ちにくい社会への変容につながり、児童虐待や子どもによる犯罪など深刻な事件に結びついている」ことである。

「平成15年8月に厚生労働省が発表した『社会連帯による次世代育成支援に向けて』では、現代は、子どもたちを取り巻く環境が一段と厳しさを増しており、核家族化の進行、就労環境の変化、近隣関係の希薄化などを背景に、家庭や地域における子育て力の低下は著しく、親の育児負担感の増大などが生じているとしています。そして、その結果、深刻な育児不安や「歪んだ」子育て、さらには子どもにとって育ちにくい社会への変容につながり、児童虐待や子どもによる犯罪など深刻な事件に結びついているとの指摘もあるとしています。」

家庭や地域における子育て力の低下や親の育児負担感の増大などが、深刻な育児不安や「歪んだ」子育てを生じて、児童虐待や子どもによる犯罪など深刻な事件に結びついていると指摘している。

子どもと子育てをする親をめぐる現状の第二の問題は、「近隣との助け合いネットワークが自然と形作られることは困難となっており、育児が孤立化し、その負担は親、特に母親一人に重くのしかかってきている」ことである。

「かつて子育ては、父母だけで担うものではなく、地縁・血縁型のネットワークによって支えられていました。父母が忙しいときは祖父母が子どもの世話をし、家族内で解決が難しいときには近所の人が子育てを手伝うといった、『ご近所』と一緒に助け合いながら共に子どもを育てること

がごく自然に行われていました。しかし、核家族化や都市化などの影響により、こうした近隣との助け合いネットワークが自然と形作られることは困難となってきており、育児が孤立化し、その負担は親、特に母親一人に重くのしかかってきているのが現状だといわれています。」

育児が孤立化し、その負担は親、特に母親一人に重くのしかかってきている子育ての現状の中で、子育てのための近隣との助け合いネットワークをどう支援しているかが求められているのである。

第三の問題は、「学校という場以外での地域社会における……子ども同士の育ちあいの関係や地域の大人と子どもとの人間関係も失われつつある」ことである。

「また、兄弟の数が減り、塾や習い事に追われる子どもたちは、学校という場以外での地域社会における子ども同士の遊びや生活経験の場が持ちにくくなり、子ども同士の育ちあいの関係や地域の大人と子どもとの人間関係も失われつつあるとの指摘もあります。」

学校以外での地域社会における子ども同士の遊びや地域の大人と子どもとの生活経験の場が持ちにくくなっているのである。

第四は、「児童虐待や不登校、非行、育児不安などの課題を抱える親子を、地域でどう支援していくかが、大きな社会問題となってきて」いることである。

「また、全国の児童相談所における児童虐待相談処理件数は、平成16年度32,979件（速報値）と、児童虐待防止法が施行された平成12年度（17,725件）と比較して約2倍近くに増えています（厚生労働省調べ）。不登校児童についても、全国の小学校の42.5%、中学校の84.4%に『不登校児童が在籍』している（平成16年度文部科学省調べ）となっています。このような現状から、児童虐待や不登校、非行、育児不安などの課題を抱える親子を、地域でどう支援していくかが、大きな社会問題となってきています。」

主任児童委員が、児童委員と共に「育てあい、育ちあいが難しくなっている現代」において、「今、子どもや子育て家庭が抱えている課題」について「どのような支援を行う必要があるのか、大きく問われて期待されているのである。

とすれば、地域の連帯感が薄れ人間関係も希薄化して、地域での家庭教育に関する相談体制、支援体制が極めて弱くなっている状況にある中で（生涯学習審議会）、子育て中の親や家庭の気軽な相談相手としてそして福祉の専門職として「担当区域をもたず、地区の児童福祉問題を担当する」主任児童委員の存在意義は大きいし、「児童福祉関係機関・施設との連絡・調整を図りながら、地区担当児童委員と一体となって児童の健全育成、子育ての支援を行う」主任児童委員が、親の家庭の子育てへの地域支援の充実に果たす重要な役割もここに求められるであろう。青森県(生活福祉部児童家庭課)は、青森県子育て支援計画「あおもりすくすく子育てプラン」(平成9年3月)の中で「(2)子どもや子育てに関する相談支援体制の整備」を策定して、「・地域において相談活動に従事する家庭相談員、児童委員・主任児童委員など相談員の活動の活性化を図るため、研修を強化します」と関係機関との連絡調整を図りながら、「児童委員と一体」となって「子どもの問題を専門に担当する」地域における主任児童委員の活動に大きな期待を寄せているのである。青森県における主任児童委員の「地域をつくりながら」の子育て支援(親支援・家庭支援・地域支援)の具体的な活動事例については、先の青森県民生委員児童委員協議会青森県健康福祉部児童家庭課編集『主任児童委員活動記録集』に、個別援助活動、児童健全育成活動、子育て支援活動、その他、学校が抱える問題と主任児童委員への期待、関係機関をつないでくれた主任児童委員・児童委員など六つ

の類型に分けて編集された貴重な主任児童委員の「活動記録集」になっている。なおこの「『活動記録集』」のケースの分け方は、内容から便宜的に分類したもので、統計的な分け方ではありません（児童環境づくり班長坂上優子氏）」と筆者宛FAX（平成10年11月10日）を受けているのでここにお断りして置きたい。

この主任児童委員活動記録集から紙幅の関係から、その具体的な主任児童委員の活動のタイトルのみを、「地域における子育て支援と主任児童委員の活動（レジメ：野口伐名）」からここに示すと次のようになっている。

「 児童福祉委員の具体的な活動事例（同上「主任児童委員活動記録集」）

- （１）個別援助活動→①不登校の生徒にかかわって ②母子家庭との関わりを通して
- （２）児童健全育成活動→①みんなで育成の輪を広げよう ②地域における児童健全育成活動
- （３）子育て支援活動→①私の子育て支援活動 ②まずは、悩みを聞くことから
- （４）その他→①気負わずに長い目で ②今後の活動に向けて
- （５）学校が抱える問題と主任児童委員への期待→学校での実践：教育庁指導課
- （６）関係機関をつないでくれた主任児童委員・児童委員→青森県中央児童相談所 」

これらの主任児童委員の具体的な活動の実際（実践）については、ここでは、上記の主任児童委員の活動のタイトルを踏まえて、個別援助活動、児童健全育成活動、子育て支援活動から紙幅の関係から残念ではあるが、それぞれ一つの活動のみの実践内容について触れておきたい。『主任児童委員活動記録集』にはやや長文に渡るがその全文を示すと次のように紹介されている。

●個別援助活動 母子家庭との関わりを通して

「連日のように新聞紙面に子供達の関連した胸の痛む記事が掲載され、主任児童委員の立場と共に、親としてこれから何をなすべきなのかいろいろと考えさせられているこの頃です。今回『個別援助活動』についての事例ということで、現在かかわっている、またこれからもかかわっていかねばならない事例を報告します。地区民生委員から、他町から引越して来た母子家庭についての相談の電話があり、２人でその家庭を訪問しました。離婚により母子家庭となり、現在小学校２年生と５才の保育園児の２人の女儿との３人家族です。本市には親戚も知人もなく近所付き合いもない様子です。母親は縫製会社に勤務していますが、給料が安く額も決まっていないので、生活が苦しく夜もレストランで皿洗い等のアルバイトをしており、小さい子供２人だけで夜の留守番をしています。日中仕事が終わって家に帰り、食事の支度をしてあわただしく家を出ていくので、家の中は洗濯物などが氾濫しており、足の踏み場もない状態です。母親は、夜子供と一緒に居る方が良いとは思っているのですが、アルバイト先の人達が親切で彼女の立場を理解してくれており、一生懸命働いて頑張っていくと言っているなので、時々様子を見に何うことを約束して帰宅しました。生活保護などいつでも相談に応じる事ができるように心がけております。また、現在住んでいる民間アパートではなく、家賃の安い市営住宅に入居できるように手続きをしています。時々訪ねて子供達の様子を見ていますが、近所に知っている人がいないので帰宅すると家の中に閉じこもり、まんが本やテレビを見て過ごしているだけです。自然に友達ができる様に児童館等の利用を積極的に勧めていきたいと思っています。地区民生委員の方々との連絡を密にし、家の中に閉じこもりがちな子供達が、子供らしい生活ができる様少しでも手助けができればと思っています。あせらず、あわてず、ゆっくりと、一步一步自分にできることは何かを探していきたいと思っています。」（主任児

童委員木村正子氏)

●児童健全育成活動 地域における児童健全育成活動

「主任児童委員制度が発足し、早くも4年が過ぎました。その間、各行事や会議には積極的に参加し、自己研鑽に努めたつもりです。継続的ではないものの、不登校児問題、年一回の村内小、中、高校の訪問、中学生ワークキャンプ、ジュニアリーダー研修など、細かく浅くかかわって参りました。

～活動例～

- ・中学生ワークキャンプ 社会福祉協議会主催 村内に関心のある中学生男女10人～20人を対象 老人福祉センターを拠点として2泊3日の日程で実施。

(主任児童委員のかかわり) 開校式、夕食、女子の入浴(浴室の清掃)、自主勉強、就寝準備、就寝(共に)、起床、朝の体操、館内清掃、朝食、野外炊事等、主に健康管理、生活指導を担当する。

- ・ジュニアリーダー研修 村子ども会主催 各子ども会のリーダーの5、6年生男女60人～70人を対象 1泊2日の日程で実施

(主任児童委員のかかわり) 主に食事作り、全体の健康管理、女子の入浴、就寝(共に)、生活指導を担当する。

以上の活動を通して、思春期の子どもたちと接し、得ることも多いが、全体に年々、家庭における教育力(食事、あいさつ等のマナー)が、低下していることを痛感します。今後の課題として、健全育成関係機関、特に教育関係と民協との連携を密にすることを、呼びかけていきたいと考えています。」(主任児童委員古館敬子氏)

●子育て支援活動 まずは、悩みを聞くことから

「主任児童委員というものをとにかく知ってほしいという思いで、まず勤務している私立幼稚園で折ある毎に話をしていたこともあって、小・中学生を持つ園児の母親やその友人からの相談や通報が多くあり、また範囲全域に広がっています。相談者が担当地区以外の場合は一応相談を受けて地区担当者があることを知らせ、相談者の承諾を得てから、地区担当者をお願いすることにしています。相談のうち多いのは学校へ行きたくないという子のお母さんからです。・いじめられているらしい・友人と何かあったらしい・頭痛、腹痛、検査したけど、どこも悪くなかった。親としてどんな言葉をかけてやったらいいかわからない。どんな態度で接していけばいいのか。学校に相談すればどうなるのか。学校に相談したけどどうにもならなかった。まずはお母さんの悩みや思いをたくさん、気の済むまで聞いてあげることになっています。この場合はお母さんが何とかしたい、子どもの気持ちを知りたいと思っているので、まだ一緒に考えることができます。私はアドバイスできるだけの専門知識はありませんが四人の子育ての先輩として、また日頃幼稚園で子ども達と接していて思うことなど、お母さんといろいろ話をしていく中で、ヒントになることが見付けられました。今まで誰にも相談できないで悩んでいたのが、話をすることによって心を開き子どもを見る目が変わってきたと言います。話を聞くことが第一のようです。相談のためのカウンセラーの先生が配置されている学校もあるし、市の教育委員会の教育センターでの相談や、不登校生のための教育施設もあること、その他県内にも県外にも相談機関があることを知らせます。ただ、何よりも大切なことは子どもの一番の理解者は両親でなければならないことを知って欲しいと思うのです。子どもと一緒に両親も悩んで考えていってほしいと思います。そのためのお手伝いができたらと思うのです。」(主任児童委員野坂庸子氏)

これらの地域における主任児童委員の活動（子育て支援・応援）が、どんなに「児童に関する問題を専門に相談に応じ」る児童福祉の専門職（福祉職）として期待されているかについては、青森県教育庁指導課が、「父と祖母の折り合いが非常に悪」いA君の「祖父母家庭」、しかも「A君も祖母と折り合いが非常に悪」いA君の家庭の問題について、「特に、学校から家庭に出向くときは、それぞれの地域で活躍されている民生委員や主任児童委員の方々の協力が不可欠」であると強調していることから知れるであろう。それは、「学校、地域、関係機関がそれぞれの立場で、相互に協力しながら対応する過程を通して、現代の子供や学校、家庭、地域社会の持つ問題が見出され、お互いの問題として考えることができ」るからであろう。A君の家庭は、「母は幼い頃生き別れ、父は通年の出稼ぎをし、毎月一定額を仕送りし、年に数回子供の顔を見るために帰って」くるが、「この父と祖母の折り合いが非常に悪く、帰ってきても家に宿泊することはない」し、「そのせいもあってか、A君も祖母と折り合いが非常に悪く、家庭では祖母の作った食事を一切取らずに、帰宅途中にラーメンを食べたり、惣菜を買って自室で食事するという状況」である。学区内のB駅から電車通学をしているA君は、「祖母と折り合いが非常に悪」いからか、B駅待合室で「電車に乗り遅れて次の電車を待っている」など、「帰宅したくなくてわざと電車を遅らせたいこと」もあるし、「A君は、この後、『病院へ行く』と偽っては遅刻や早退、欠席を繰り返す」子どもである。

「校長先生が、家庭訪問」をした時、「数日間何も食べていない状態でふらふらして部屋から出てきた」こともあったと言う。「このケースでは中学校は、学校だけで対応するのではなく、児童相談所や民生委員、主任児童委員の方々に相談するなど、連携を深めながら問題の解決に当たった」のである。「学校が抱える問題」の解決、殊に「子育て等で悩んでいる家庭を支援してい」くためには、いかに主任児童委員への期待が大きいかわかるであろう（青森県教育庁指導課「学校が抱える問題と主任指導委員への期待」）。

しかしながら主任児童委員への期待が大きい反面、「児童委員の頭に『主任』がつくことにより児童委員とどう異なるのか戸惑うばかりでした」と言う言葉に明らかなように、次のように主任児童委員の「何をすればよいか」と言う戸惑いもあったことは確かであろう。

●その他 2 気負わず長い目で

「主任児童委員の委嘱状をもらい最初に思ったことは何をすればよいかということでした。今までは民生委員・児童委員としてたいしたことはできないまでも何とかお手伝いをしてきたからです。児童委員の頭に『主任』がつくことにより児童委員とどう異なるのか戸惑うばかりでしたし、先輩の一人は『こんなものは児童委員で十分対処できるから新たな組織は必要ないのでは?』と言う有様。という訳でまず両者の違いから勉強することにし研修会にも参加しましたが、わかったようなわからないようなというのが本音でした。子どもの幸せに全般的に関わることを理解しておけば『当たり前とも遠からず』とも思っていましたし、仕事から仕事を覚えるとも思っていましたので、何はともあれ活動を開始しました。私が主任児童委員になった年は前年度より大幅に主任児童委員が増員された年であり、しかも全国的にいじめやそれが原因で自殺や不登校が取り沙汰されている時期でしたので、委員全員で『学校を知ろう』ということで学校訪問をすることになりました。……がやはりいじめ不登校などというのは学校側からみればあまり外には知られたくないことで、当事者と教師とが一緒になって問題解決に取り組めば済むことであり、まして我々のような素人集団に知らせて、世間に赤裸々にされることなど迷惑な話だと思っているに違いないと思い、主任児童委

員の顔ぶれを知ってもらえば良い程度の思いで学校訪問から始めたのです。案の定、最初の頃はよかったです。『うちの学校ではいじめ不登校はほとんどありません』とか『あまり来てもらってもお話しすることはありません』又、校長先生にあらかじめ連絡しておいてもらっても、忙しいからとか急に出張が入ったなどと言われ会えないこともありました。予想していたとは云え良いスタートとは云えませんでした。又、福祉事務所では毎月学校訪問をどうかということで、その辺の考え方のギャップを埋めるのにも苦労しましたが、あまり周りの意見にふりまわされずボランティアということもありますので、主任児童委員が主体的に決定し主体的に動くということで考えがまとまっています。いずれにしても最初から一度に目に見える成果は考えず、気負わず長いスパンで行動してゆこうと思っております。激動する社会環境の中、いろいろな歪みが弱者である子ども達に及んでいる昨今、我々主任児童委員に課せられた責務は決して軽くはないのですが、我々自身も未熟ゆえに関係方面から協力や指導を得ながらがんばっていこうと考えています。」（主任児童委員小松山吉紀氏）（『主任児童委員活動記録集』）

「主任児童委員に課せられた責務は決して軽くはない」が故に、主任児童委員が「主体的に決定し主体的に動くということで考えがまとまる」までの苦勞が偲ばれよう。

更に、主任児童委員が課題を抱える親子を個別支援する活動事例については、『児童委員、主任児童委員が、課題を抱える親子を支えるための活動ヒント集（児童委員活動の手引き31）』の「Q5 家庭を訪問する場合」中で、その具体的な取り組み方について「事例7 拒否的な家庭と少しずつ信頼関係を作りながら」と題して、次のように示されており極めて学びが大きい。

●家庭を訪問する場合 拒否的な家庭と少しずつ信頼関係を作りながら

「小学校の先生から、不登校の子どもについて主任児童委員である私に相談がありました。先生は、その親が学校側の呼びかけにほとんど答えないこともあり、主任児童委員に地域住民の立場から相談にのってくれないかとのことでした。区域担当児童委員によれば、その家庭は地域住民ともほとんど交流がないとのことでした。

そこで、最初は、先生と一緒にその家庭を訪問し、先生から両親に、私が主任児童委員であること、主任児童委員とは子どもや子育ての支援をする人であることなどを紹介してもらいました（最初はすでにつながりのある学校の先生と訪問）。しかし、親はジロリと私を見るだけで、ろくに挨拶もせず戸を閉めてしまいました。

私は、その後、買い物や他の用事でその家を通りかかると、ちょっと立ち寄って声をかけるようにしました。そのときは、お子さんのことは話題にせず、『ちょっと寄ったから』とあくまでも地域住民として声をかけるようにしました（地域住民としての関係作り）。

最初は全く反応がなかったのですが、あるとき頂き物のおすそ分けを持っていったら、母親が受け取ってくれました。その後訪問したときには、『うちでできた野菜をどうぞ』と持たせてくれ、これをきっかけに少しずつ心を許してくれるようになってきました。

そのうち自然な立ち話ができるようになったところで、母親にお子さんの不登校について『学校に相談に行ってみようよ』と話をすると、そうだねといい、一緒に学校に行くことができました（信頼関係ができてから、本題に）。」

主任児童委員が「自ら地域とのつながりを絶ち、孤立してしまう」「課題を抱える親子」の「個別支援」に際しては、主任児童委員は、「最初はすでにつながりのある学校の先生と訪問」をして

先ず「地域住民としての関係作り」をする、そして「無理強いせず」に「その旨関係機関に伝え、見守り」、「信頼関係ができてから、本題に」入ることがどんなに大切であるか、主任児童委員の「家庭を訪問する場合」の支援のあり方を良く教えている。

ところで、平成16年の児童福祉法の改正によって、「課題を抱える親子への個別支援（個別事案）」は、区域担当児童委員と主任児童委員が協働して関わる」ことによって、「地域の児童福祉活動の推進を図ることが明確」になったことは、既に触れたところである。そこでここでは児童虐待や不登校、非行、育児不安などの個別事案・個別ケースに主任児童委員が区域担当児童委員と「協働して関わる」個別支援について、具体的にはどのような方法が可能であるのか、『児童委員、主任児童委員が、課題を抱える親子を支えるための活動ヒント集』から具体的に学んでみることにしたい。『同活動ヒント集』は、主任児童委員が児童委員と「協働して関わる」個別支援の方法について、「役割分担」の視点から「課題を抱える親子について、関係機関とも協議の上、児童委員も見守り支援していくことになった場合、区域担当児童委員と主任児童委員の役割分担は、」と次の二つの具体的な方法を提示している。

「①主任児童委員が主体となって、関係機関と連携をとりながら、親子の相談にのり、支援をし
ていき、区域担当児童委員も必要に応じてその見守り支援に協力していく場合」

「②区域担当児童委員が主体となって、親子の相談にのり、支援をしつつ、主任児童委員が必要
な情報提供を行ったり関係機関との連携をはかって、そのサポートをする場合」

この主任児童委員と区域担当児童委員が「協働して関わる」個別支援としては、この2つの方法が「多く見受けられ」るが、これら2つの方法では、「①の方法をとっているところが比較的多いよう」であるが、「親子の家が区域担当児童委員の家の近くだった場合や、区域担当児童委員のほう
がその親子との人間関係を作りやすい場合には、②の方法をとっている事例」もあったと教示している。そしてこの主任児童委員と区域担当児童委員が「協働して関わる」個別支援がより効果的な子育て支援活動として行われるためには、民児協会長（民生委員児童委員協議会長）が、「主任児童委員から得た親子の情報をもとに、民児協としてできる支援を主任児童委員とともに考え、その支援を行うための民児協内の合意形成をはかり、支援にあたる区域担当児童委員と主任児童委員が活動しやすいように支える役割を果たす」ことが極めて重要であると強調している。

この主任児童委員と区域担当児童委員が「協働して関わる」個別支援の事例としては、『「わがまちならでは」の児童委員活動の展開をめざして（児童委員活動の手引き30）』（社会福祉法人全国社会福祉協議会全国民生委員児童委員連合会）の中で、「実際に主任児童委員が区域担当児童委員と連携しながら、個別支援に関わっていった事例」について、次のように紹介しているので、やや長文に渡るがここに示して置きたい。

「事例3 小学校の先生から『3年生と1年生の兄弟の児童が、先月から欠席が続いている。保護者に電話しても『病気だ』と答えるだけで、自宅へ訪問しても誰も出てこない。どんな様子か見てもらえないか。』と、主任児童委員が相談をうけました。早速主任児童委員は、区域担当児童委員と連絡をとり（主任児童委員と児童委員の連携）、家庭訪問をしてみる（状況の把握）と、その兄弟とさらに3歳の双子の妹たちの4人だけが家にいました。

『お父さん、お母さんは？』とたずねると、『お父さんはずっと前に出て行った。お母さんは仕事で3日前から出かけている』と兄弟たちは答えました。家の中を見ると、スナック菓子の空袋

やカップラーメンの容器が散乱していました。3日間子どもだけで留守番をしていた状態に驚いた主任児童委員と区域担当児童委員は、急いで児童相談所へ通告しました（虐待の発見と通告）。

児童相談所はすぐにやってきて、子どもたちを一時保護していきました。あわせて、一時保護した旨を記載した手紙を家に置いていきました。

児童相談所によれば、翌日、母親が児童相談所へ連絡してきたそうです。そして、『勝手に子どもを連れて行くな。返してほしい』と訴えたとのことでした。

区域担当児童委員と主任児童委員は民児協の定例会でこの出来事を報告し、この母親にどのような支援をしたらよいか、話し合いました（民児協内での協議）。そして、児童相談所とも協議し、再度家庭訪問をして、母親と話してみようということになりました。

再び区域担当児童委員と主任児童委員の二人が家庭訪問をする（個別支援）と、母親は「子どもたちが連れて行かれたのはあんたたちのせいだ」とののしり、全く児童委員の話を開こうとしませんでした。その場はしかたなく、そのまま帰ろうとすると、その家の前に止めてあった自転車が壊れていることに気づきました。そのことを母親に伝えると、「お金がなくて直すことができない」とつぶやきました。

民児協の中に自転車屋を営む児童委員がいたことを思い出した区域担当児童委員は、『それでは知り合いの自転車屋に修理を頼んでみよう』といい、翌日、その児童委員がきてボランティアで自転車を直してくれました。

このことがきっかけとなって、母親は私たちに少し心を開いたようでした。そして、夫と離婚したこと、4人の子どもの生活費を稼ぐために昼夜仕事をしていること、隣のまちに住む両親の介護もしなければならないことなどを、ぽつりぽつりと話し始めました。私たちは、母子家庭を支援する制度がいくつかあること（サービスの紹介）、また両親の介護についても介護保険サービスなどを利用することができることを話し、子どもたちと暮せるようにこれからの生活を一緒に考えていこうと伝えました（相手の立場に立った支援）。

主任児童委員はこのことを児童相談所に報告しました（関係機関への連絡調整）。児童相談所は早速児童虐待防止ネットワークの個別ケース会議を招集し、主任児童委員（児童虐待防止ネットワークへの参画）、児童相談所の児童福祉司、兄弟が通う小学校長と担任の教員、市の母子福祉課と保育課、老人福祉課の職員、保健所の保健師、介護保険サービス事業者でもある社会福祉協議会が集まって対応を協議しました。

そして、まずこの母子の経済的支援について母子福祉課が相談に乗ることになり、あわせて3歳の妹たちの保育所入所を申請することを母親にアドバイスすることにしました。児童相談所は母親を呼び、今後の生活について話し合いをしました。母親の両親の介護については、社協が相談にのり、介護保険サービスを利用することになりました。

その結果、母子はまだ受給していなかった児童扶養手当を申請し、母子家庭を対象としたホームヘルパーが週に2回家庭を訪問することになりました。3歳の妹たちの保育所入所も決まり、母親はできるだけ仕事を昼間にするようにしました。そこで、子どもたちは一時保護所から家庭に戻りました。仕事が夜になったり、両親の介護につきそう場合は、児童養護施設のショートステイを利用することにしました。

主任児童委員は、このことを民児協の定例会で報告（民児協への報告）し、母親の両親が住む地

区の民生委員・児童委員は両親の様子を見守り、時々相談にのったりするようになりました。先日は、民児協が参加した地域の子ども祭りに区域担当児童委員が誘い、兄妹4人で遊びに来ていました。とりあえず子どもたちは元気に学校へ通っているようです。

今も、区域担当児童委員と主任児童委員がときどき母親や子どもたちに声をかけるといった、見守り（日常的な見守り支援）を続けています。」（児童委員活動の手引き30）

「担当区域を持たずその経験上児童福祉に関わる知識や情報を有する」主任児童委員が区域担当児童委員とよく「協働して関わる」ことによって、「子どもや子育て家庭の対場に立って、親身になって相談にのり、必要なサービスや機関の情報を提供して」、どんなに「地域の推進役」として「子どもと子育て支援活動」を展開しているか、が容易に理解されるであろう。この主任児童委員が区域担当児童委員と「連携」しながら「実際に個別支援に関わっていった事例」は、主任児童委員が、主任児童委員と児童委員の連携、状況の把握、虐待の発見と通告、民児協内での協議、個別支援、サービスの紹介、相手の立場に立った支援、関係機関への連絡調整、児童虐待防止ネットワークへの参画、民児協への報告、日常的な見守り支援など一連の主任児童委員の「子どもと子育て支援活動」の展開に見られるように、主任児童委員が区域担当児童委員と「協働して関わる」と共に、主任児童委員ならではの「様々な機関や団体、地域住民と協働して展開する」個別支援の理想的なあり方（具体的な方法・モデル）を示しており極めて学びが大きい。なお、紙幅の関係で割愛するのは、極めて残念なことであるが、主任児童委員が、保健所の保健師、保育所の栄養士、そして区域担当児童委員と共によく「連携」しながら個別支援活動を実践している事例「精神的に不安定な母親への支援を通じて」が、先の『わがまちならでは』の児童委員活動の展開をめざして（児童委員活動の手引き30）』の中に、よく示されているので、是非参照して欲しい。そこでは、主任児童委員が、個別訪問（主任児童委員、区域担当児童委員）、児童館の活動（子育て広場）への誘いかけ、サービスの紹介（ファミリーサポート、保育所の一時保育）、関係機関との連携（保育所の栄養士、保健所の保健師など「子どもや子育て家庭の立場に立って、親身になって相談にのり、必要なサービスや機関の情報を提供して」、関係機関と「協働して関わる」ことによって、「地域の推進役」として「子どもと子育て支援活動」を展開している様子が良く示され学びが大きい。

V 青森県弘前市に見る主任児童委員の活動の展開

最後に弘前市における主任児童委員の活動状況（専門職：児童福祉の担い手：児童委員のリーダー役：地域の子育てアドバイザー：オンブズマンの役目）を、みどり保育園（園長鳴海秀子氏）の「平成10年度地域子育て支援センター事業」と弘前市の平成18年度の「社会福祉の概況」から見て見ることにしたい。最初に、みどり保育園の「平成10年度地域子育て支援センター事業」から主任児童委員の活動について見て見ることにしたい。この平成10年度地域子育て支援センター事業は、みどり保育園においては、園内に設置されている保育所地域子育て支援センター事業懇話会によって企画され作成された「保育所地域子育て支援センター事業計画」に下づいて運営されている。地域子育て支援センターは、「市町村が保育所などを指定し、地域の子育て家庭の育児不安を解消するための相談や子育てサークルの育成・支援などを行なう」ために設置されたものである。地域子育て支援センターの目的は、「保育所が地域の子育てネットワークの中心として育児相談、育児サークルの支援等を行う」（青森県「お父さんの子育てハンドブック」）ことにある。みどり保育園の

「保育所地域子育て支援センター事業懇話会」は、保育園（含ベビーホーム）6名、保育研究会1名、社会福祉協議会2名、民生委員2名、行政（児童相談所、保健所、福祉事務所、保健センター）4名、病院1名、子育てメイト2名、言葉の教室2名、主任児童委員2名の計22名から構成されている。平成10年度の「保育所地域子育て支援センター事業計画」は、地域子育て支援センターの活動項目と保育所機能の活動項目の大きく二部に分けられ成り立っている。今、ここでは、紙幅の関係からみどり保育園における平成10年度の「保育所地域子育て支援センター事業計画」に見られる活動内容のうち「活動項目」「活動内容」「ねらい」の三項目のみを示すと次のようになっている。

保育所地域子育て支援センター事業計画（平成10年度）

みどり保育園

活動項目	活動内容	ね ら い
1 相談活動	1. 電話相談の実施 2. 面接相談の実施 3. 訪問相談の実施 4. 乳幼児の食事相談の実施	育児不安解消のため、智識・技術の提供 育児不安に対し、具体的なアドバイスをする 乳幼児の食事に関する知識の提供
2 子育て支援活動	1. 育児講座の開催 ①乳幼児保育に関すること 遊び・ことば・絵本の選び方 ②病気に関すること 「歯科衛生」 ③障害に関すること ④乳幼児に関すること ⑤乳幼児に関すること 若い両親の生活指導 2. 育児技術の実施指導 ・ふれあいデー 3. 子育て通信 4. 乳幼児の食事指導 ・ふれあいデー おやつ（未満児） ・一日体験入所 食事 5. 障害児保育の指導	育児不安解消のための智識・技術・情報の提供 ①乳幼児保育への理解を深める ②乳幼児保育への理解を深める ③障害児への理解を深める 入園児とのふれあいを体験し保育所生活を知る 母親同士の情報交換 子育てへのアドバイス おやつを通して、ふれあう母親におやつへの理解をもってもらう 入園時における障害児の把握と理解を深める
3 ①育児サークル	1. 子育て談話室の開放 ・面接指導 ・交流 2. 育児サークルへ場の提供 ・サークル推進大会	母親の集いの輪を広げながらサークル活動につながる 関連保育園やサークルとの交流
4 広報活動	1. ①子育て支援だより ②保育だより	市民、保育関係機関に保育所地域子育て支援センター事業を理解してもらう
5 特別保育の推進	1. 保育ニーズ把握 関連保育所との情報交換 障害児保育 一時的保育 2. 保育所等連絡調整会議の開催 ・代表者会議 ・担当者会議	子育て支援のネットワークづくりをする 女性就労に対し、保育システムと育児の支援を行う 事業を円滑に進めていくために行う

6 その他	1. 拠点保育所の年間行事 地域の特性に合わせた活動 ①桜のお花見会 4/24 ②つつじのお花見会 5/23 ③ねぶたを中心とした夏祭り ④運動会 9/26 ↑7/11 ⑤バザー・作品展 10/24 ⑥Xマス遊戯会 12/19 ⑦まめまき会 2/3	行事を通して、地域の人々とのふれあいをもつ 夏の遊び（出店、おばけ屋敷、ねぶた）を通して親子や卒園児、地域の人々とのふれあいをもつ
-------	--	--

なお保育所機能の活動項目については、「保育所機能の開放」「保育所機能の充実」「その他」に類型化して、地域子育て支援センターの活動を展開しているが、紙幅の関係で残念ながら省略したい。主任児童委員は、「児童福祉分野での経験が豊富な民生委員・児童委員のなかから選出される」ことになっていることは先に触れたところである。青森県においては、平成10年3月現在で、「子育てに関する相談・支援の窓口」としての「地域の支援制度」に、「民生児童委員、主任児童委員」、「子育てメイト」、「地域子育て支援センター」などを設けて、子どもの健やかな成長と子育てを応援している（青森県「お父さんの子育てハンドブック」）。そして「地域の支援制度」としての「民生児童委員、主任児童委員」の活動について、青森県民のために次のように紹介している。

「民生児童委員、主任児童委員（地域の支援制度）」

福祉に関するあらゆる相談にのり、必要に応じて行政や関係機関との橋渡しをする方として厚生大臣が委嘱しています。主任児童委員は児童に関する問題を専門に相談に応じています。」（青森県「お父さんの子育てハンドブック」）

民生児童委員、主任児童委員は、地域の誕生から幼児期までの子どもの子育て支援制度、より具体的には「子育てに関する相談・支援の窓口」として設けられているのである。それでは、このみどり保育園の平成10年度「保育所地域子育て支援センター事業計画」（子育て支援「年間行事予定計画表」）を企画し運営する際に、「保育所地域子育て支援センター事業懇話会」において、主任児童委員は、具体的には、どのような役割を演じているのであろうか。同懇話会における主任児童委員は、弘前市二大地区から選出された安井えり子氏、同三大地区から相沢美保氏の計2名である。このみどり保育園の保育所地域子育て支援センター事業懇話会における主任児童委員の活動について、みどり保育園の主任保育士（主任保育士：現園長）の外川さき氏は、次に具体的に箇条書きで示すように極めて高く評価している。

- 1 地域の家庭や親に子育て情報の提供（例えば、子育て通信、福祉行政のチラシ、子育てハンドブック、給食サービス、直接指導できるなど）。
- 2 地域をまわり育児に困っている家庭の情報の把握（例えば、家庭訪問をして家庭の状況がどうなっているか観察する、障害をもっている子のサークルの支援、地域子育て支援センターで欲しいこと、更には独居老人の把握など）。
- 3 子育てサークルと子育てに関するイベント（行事）の推進（例えば、他の機関の育児教室を容易にPR（紹介）することが可能になる（例えばチラシを流す、子育て支援ハンドブックなど）。
- 4 地域の色々な子育て支援事業が分かり、更には懇話会の活動が委員相互が“顔見知り”になることによって極めてスムーズになる（例えば児童相談所の事業内容が分かる、ネットワーク

の子育ても可能になる、教育委員会を通して欲しいなど手続き問題に関して直接情報交換ができるなど)。

- 5 地域の子育てに関するネットワーク（例えば子育てメイト）と直接情報交換ができるし、またいわゆる横の専門機関（児童相談所、市町村役場の保健センター、保健所、福祉事務所）・地域子育て支援センター情報を直接得ることができる。
- 6 子育てメイト・民生委員・保母（保育士）がお互いに協調して活動を展開することができる（例えば、虐待・いじめへの対応、何か子どもが変だ！、どうすれば良いか、課題が出る、など。）

このように主任児童委員は、児童に関する問題を専門に相談に応じ、「子育てに関する相談・支援の窓口」として期待され活動しているのである。このことは、青森県中央児童相談所も、「児童相談所が相談業務を進めていくうえで主任児童委員や児童委員の方々…と共に手を携えていかなければ事が進んでいかない」し、「主任児童委員・児童委員の方の熱意によって各関係機関や関係者が動き、それが具体的な解決方策を生み出した」と、「日頃の主任児童委員及び児童委員の方の御苦労に感謝」していることから容易に理解することが出来るであろう。この「関係機関をつないでくれた主任児童委員・児童委員」の活動に対して、青森県中央児童相談所は、「児童相談所が相談を受けた後の処遇方法として」、「16名の児童福祉司（ケースワーカー）で県内の各地区を担当していることもあり、日頃から主任児童委員や児童委員の方々と親しく接する機会を持てず、勢い自己完結的な仕事をする傾向が強まっていたのではないかと深く反省しながら、「児童相談所に対する御指導と御協力をお願い申し上げます」とまで述べている。なお子育てメイトは、「子育てに関する不安や悩みを気軽に話し合える方として県知事が委嘱」し「主に小学校入学前の、保育所や幼稚園に行っていない子どものいる家庭を訪問」して、親や家庭の子育てに関する相談・支援に従事している青森県における地域の子育て支援制度の一つである、ここで参考のために、民生委員・児童委員と主任児童委員及び子育てメイトの職務の相違について、青森県健康福祉部児童家庭課が作成した「民生委員・児童委員、主任児童委員、子育てメイトとの比較」から示すと次のようになっている。これは、平成10年11月10日付FAX送信で同児童家庭課児童環境づくり班総括主幹（班長）坂上優子氏から教示されたものである。

民生委員・児童委員、主任児童委員、子育てメイトとの比較

区 分	民生・児童委員	主任児童委員	子育てメイト
法的位置付け	① 民生・児童委員法に定める民生員（厚生大臣委嘱） ② 児童福祉法に定める児童委員（民生委員が充てられる）	民生・児童委員と同じ	地方公務員法第3条第3項の特別職の地方公務員（非常勤）（知事委嘱）
業務上の位置付け	地区のケースを担当	児童福祉の事項を担当	地区の子どものいる家庭を担当
活動地区単位	担当地区	民生委員・児童委員連絡協議会の単位	担当地区
人 数	3,142名	241名	3,000名

児童福祉法に関する業務	児童委員活動要領に定める業務 (1)地域の実情の把握と記録 (2)適切な機関への連絡 <u>通報</u> ・虐待、放任等により、保護者に監護させることが著しく不適当と認められた児童 (3)地区内の相談援助 (4)意見具申 (5)児童の健全育成のための地域活動	主任児童委員設置運営要綱に定める業務 (1)児童福祉関係機関と地区を担当する児童委員と連絡調整及び児童委員と一体となった活動 ①家庭環境、社会環境の情報収集 ②地域ぐるみで行う子育て活動の啓発の企画及び活動の中心的役割 ③児童健全育成活動や母子保健活動の推進 (2)児童委員の活動への援助、協力 ・虐待されている児童等の発見、 <u>実情把握</u>	子育てメイトに関する規程に基づく活動 (1)子育てに関する相談及び支援 (2)児童福祉関係行政機関、児童委員、保健婦との連絡及び協力 (3)児童及び家庭の状況の把握等
児童福祉以外の業務への協力	個別世帯の指導援助	制度の周知徹底にとどめ地区担当民生委員・児童委員に連絡	相談を受けた時の民生委員・児童委員の紹介
児童問題への関わるの程度	児童問題への関わるの程度	児童問題だけに関わる	広く子育て一般について関わる

平成10年度のみどり保育園地域子育て支援センターの活動は、平成10年度地域子育て支援センター事業の下に、子育て年間行事予定計画表が、次のように作成され子育てを支援している。

平成10年度 地域子育て支援センター事業
子育て支援 年間行事予定計画表

月	日	テ ー マ	月	日	テ ー マ
4	15	みんなで作ろう“こいのぼり”	10	21	お外で元気に“かけっこだよー”
5	20	みんなで作ろう“ピカチュウ”	11	18	落葉で遊ぼう“何ができるかな?”
6	17	“七夕飾り製作”をたのしみましょう	12	16	楽しい“クリスマス”
7	15	“金魚ねぷた”を作ってみませんか	1	20	“まめまき”のお面づくり
8	19	水に親しみましょう“プール遊び”	2	17	楽しい“ひなまつり”
9	16	みんなで“チョキチョキ”楽しいな	3	17	思い出づくり(手型押し)

このみどり保育園の地域子育て支援センター事業（子育て支援「年間行事予定計画表」）は、みどり保育園に設置されているによって企画され運営されている。

次に、平成18年度の「社会福祉の概況（平成18年度）」（弘前市福祉事務所発行）から、弘前市

における主任児童委員の活動状況（専門職：児童福祉の担い手：児童委員のリーダー役：地域の“子育てアドバイザー”：オンブズマンの役目）を見て見たい。弘前市における主任児童委員の活動状況を「社会福祉の概況（平成18年度）」（弘前市福祉事務所発行）から「内容別相談・支援件数」、「分野別相談・支援件数」、「その他の活動件数」、「訪問回数」、「活動日数」、「連絡調整回数」に分類して示すと、平成18年9月1日現在、次のようになっている。

主任児童委員活動状況

●内容別相談・支援件数 在宅福祉（2） 介護保険（1） 健康・保健医療（5） 子育て・母子保健（199） 子どもの地域生活（406） 子どもの教育・学校生活（319） 生活費（5） 年金・保険（4）	仕 事（38） 家族関係（66） 住 居（7） 生活環境（52） 日常的な支援（91） その他（64） 合 計（1,259）
●分野別相談・支援件数 高齢者に関すること（84） 障害者に関すること（12） 子どもに関すること（1,048）	その他（115） 合計（1,259）
●その他の活動件数 調査・実態把握（58） 行事・事業・会議への参加協力（1,503） 地域福祉活動・自主活動（961）	民児協運営・研修（735） 証明事務（12） 要保護児童の発見の通告・仲介（70）
●訪問回数 訪問・連絡活動（1,281）	●活動日数 活動日数（8,596）
●連絡調整回数 委員相互（1,261）	その他関係機関（696）

青森県弘前市における平成18年9月1日現在の主任児童委員は42人で、その男女の内訳は、男12人（28.6%）、女30人（71.4%）となっている。主任児童委員は、この主任児童委員活動状況から良く知れるように、弘前市の地域住民の良き相談者・支援者として活動しているのである。最後に青森市の「広報あおもり平成13年12月15日号」から主任児童委員の主な活動をここに挙げて終わりにしたい。

「主任児童委員 主な活動

18歳未満のすべての子どもを対象にした児童福祉について専門的に担当し、子育てしている家庭に積極的な支援をします。

- ・あいさつ運動や子ども会活動への協力、事故防止と、非行防止活動など子どもたちのための健全育成活動
- ・子育てに悩むお母さんの相談や、子どもの不登校、ひきこもりや虐待、いじめに対する相談など民生委員・児童委員・主任児童委員は、市民の皆さんの相談などに応じ、行政機関とのパイプ役として活動しています。」

児童虐待やいじめ自殺の問題が深刻な社会問題となっている今日、主任児童委員は、これまで以上に、「地域ごとに親子が抱える問題の相談や調整役（福田志津枝氏）」として大きな期待が寄せられているのである。その意味では、主任児童委員の役割は、「子どもと子育て家庭を支援する」地域の推進役として大きく期待されているのである。このことは、社会福祉法人全国社会福祉協議会全国民生委員児童委員連合会の『「わがまちならでは」の児童委員活動の展開をめざして（児童委員活動の手引き30）』に、主任児童委員の役割として、「子どもと子育て支援活動展開における、地域の推進役」と「区域担当児童委員と連携した個別支援」の二つが挙げられていることから容易に理解されよう。第一の主任児童委員の「子どもと子育て支援活動展開における、地域の推進役」は、具体的には、「子どもと子育て家庭を支援する」取り組みを、「各地域で推進する役割」であり、「活動の展開にあたっては、…地域の関係機関や団体、地域住民と連携し、区域担当児童委員とともに展開していくこと」である。そしてそこに大きく期待されていることは、主任児童委員が「様々な機関や団体、地域住民と協働して展開することによって」、「地域全体で子どもと子育て家庭を支援する気運づくり」につながっていくことである。第二に主任児童委員に期待されている「区域担当児童委員と連携した個別支援」は、主任児童委員が「区域担当児童委員と連携して、子どもや子育て家庭に対する個別支援を行うこと」である。具体的には、「児童虐待など緊急に対応する必要があるケースに対し、区域担当児童委員とともに、主任児童委員が主体的に関わっていくことが期待されている」のである。私と共に青森県のそして弘前市の青少年の健全育成に長い間関わってきた弘前市和徳南地区主任児童委員大湯恵津子氏は、主任児童委員の使命と役割について最も端的に、「主任児童委員とは 児童の諸問題を主に活動します。地域の子どもや、母親の相談相手になったり、児童健全育成活動を行うなど、健やかに子どもを生み、育てる環境づくりを進めるボランティアとしての民生委員・児童委員です。」と述べている。ちなみに、「更北地区民生児童委員協議会」は、主任児童委員の活動の「今後の課題」として次の二点を挙げている。

「 6 今後の課題

①子どもたちの健全育成を求めた地域のネットワークづくり

～1つの問題を、共に考え合い、共に支え合う～

②児童に関する有害環境の浄化」（「更北地区民生児童委員協議会の紹介」）

その意味では、主任児童委員の養成のあり方や高度の研修を行う仕組みをどう形成していくかも今後の重要な課題であろう。

なお本稿は、平成10年11月17日(水)に「ホテル聚楽」で行われた平成10年度福島県主任児童委員研修会の講演レジメ「地域における子育て支援と主任児童委員の活動（野口伐名）」に今日的課題にも視野に入れながら大幅に加筆して小論文化したものである。

引用・参考文献

1. 『新版・社会福祉学習双書』編集委員会編『児童福祉論』p,182
2. 福祉士養成講座編集委員会編集『児童福祉論第3版』p,96、p,185
3. 全国民生委員児童委員協議会『児童委員活動の活性化をめざして－児童委員問題研究会中間報告（平成4年11月21日）－』
4. 硯川真司他『現代児童福祉活動論』p,45

5. 青森県民生委員児童委員協議会青森県健康福祉部児童家庭課編集『主任児童委員活動記録集』
6. 吉沢英子小館静枝編『保育講座新版児童福祉』p,178
7. 福田志津枝『これからの児童福祉（第2版）』p,ii、p,93~95
8. 「野口伐名子育て支援・保育・教育・福祉論集ー子育てに必要な優しい地域作りのためにー」
p,26
9. 子育てセンター実践研究会編『子育て支援実践報告61』
10. 青森県子育て支援計画「あおもりすくすく子育てプラン」（平成9年3月）p,29
11. 「社会福祉の概況（平成18年度）」（平成18年9.1 弘前市福祉事務所発行）
12. 青森県家庭教育推進協議会・野口伐名監修執筆『家庭教育支援総合推進事業平成16年度事業報告集』p,1
13. 野口伐名「地域における子育て支援と主任児童委員の活動（平成10年度福島県主任児童委員研修会講演レジメ）」
14. 兼子芳久「福祉施策の動向～少子社会への対応～」
15. 平成10年度第2回子育てサークル推進大会開催要綱 テーマ「フレッシュ イン 子育て」（主催子育てサークル推進大会実行委員会・青森県）
16. 青森県「お父さんの子育てハンドブックすくすく」
17. 大塚達雄他『③社会福祉』
18. 大島侑『社会福祉論』
19. 中村優一・秋山智久編『社会福祉援助技術』p,8
20. 後藤健治「平成14年コザ児相主任児童委員研修講義資料～虐待された子供たちの心理と治療、ケアについて」
21. 長野市「更北地区民生児童協議会の紹介」
22. 青森市の広報あおもり平成13年12月15日号
23. 社会福祉法人全国社会福祉協議会全国民生委員児童委員連合会『「わがまちならでは」の児童委員活動の展開をめざして（児童委員活動の手引き30）』
24. 社会福祉法人全国社会福祉協議会全国民生委員児童委員連合会『児童委員、主任児童委員が、課題を抱える親子を支えるための活動ヒント集（児童委員活動の手引き31）』

※上記の引用・参考文献の他にも、この小論を作成するに当たり、青森県民生委員児童委員協議会、青森県健康福祉部健康福祉政策課（橋本憲一氏）・同児童家庭課（坂上優子氏）、同こどもらい課山本幸子氏及び弘前市市役所福祉総務課（小田桐氏）、みどり保育園の鳴海秀子、外川きさの両氏、弘前市主任児童委員大場恵津子氏をはじめ、多くの先学の優れた研究成果を拝借し援用させていただいたことを深く感謝申し上げたいと思います。